

J-ARCHITECT

JAKUETS ARCHITECTURAL DESIGN MAGAZINE

ジェイアーキテクト

VOL.05

大楠の里こども園〈佐賀県〉／わかぎ幼稚園〈福島県〉



Photo: 大楠の里こども園 (佐賀県)

JAKUETS



CASE:1

緑の丘に翼を広げ、自然を感じる木造園舎

社会福祉法人 教證会 大楠の里こども園 様

佐賀県で幼稚園と保育園を運営してきた社会福祉法人様が、両園を合併した認定こども園をスタートさせるにあたって、耐震対応の新園舎の建設を計画した。緑豊かな周辺環境とマッチさせながら、園庭も広く確保したいとの要望を受けて、扇のように広がった形状の園舎を提案。赤い屋根と黒い外壁が印象的な外観に加えて、木材の色合いを活かした内装で、自然のぬくもりを感じられる空間を演出した。円弧に沿って並ぶ各保育室から園庭にとび出す園児たちの軽やかな足取りが、丘の上の園舎を活気づけている。



社会福祉法人 教證会 大楠の里こども園 様	
所在地：佐賀県武雄市	《園舎概要》
主要用途：幼保連携型認定こども園	構造／木造平屋建
定員：130名	敷地面積／8274.92㎡
竣工：2018年8月	延床面積／999.14㎡
	建築面積／1077.22㎡



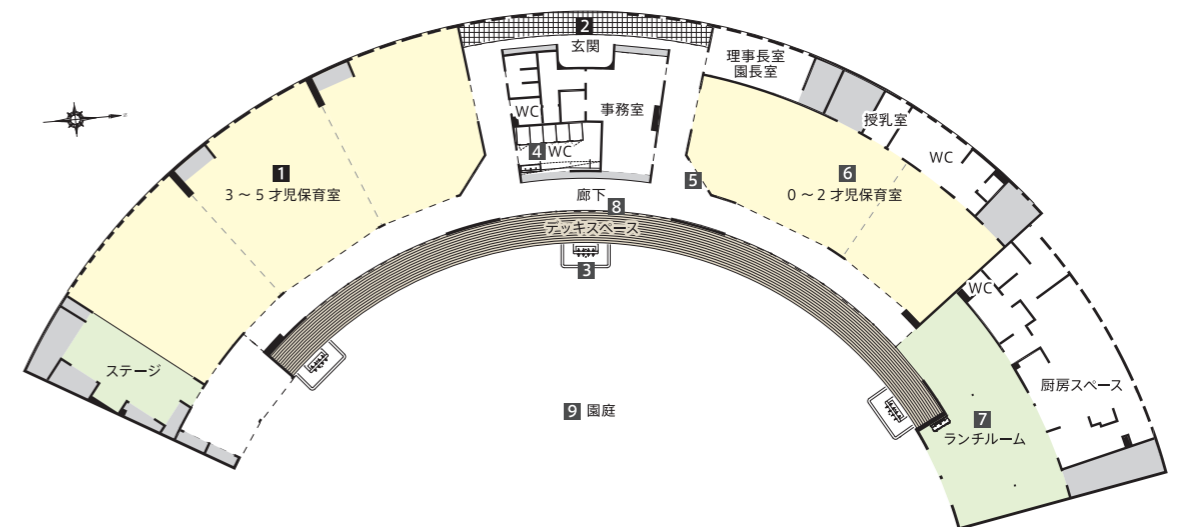
居住空間に広がりを与え、木のぬくもりを表現

高台にある敷地の中で園庭の広さを最大限に確保するため、円弧を描く平屋建てのユニークな間取りを選択した。円弧の内側に向かって下る屋根の赤と外壁の黒が、周囲の緑とのコントラストを鮮やかにする。左右両翼に分かれた保育室は、大きなガラス戸を通して園庭を見渡すことができ、間仕切り戸を取り外せば、より広いホールとしても使用できる。天井を高くした保育室は、屋根へと開いた明かり窓からの採光を図りつつ、梁など木製の構造体が見えるようにして、木造建築の温かさを伝えている。



園歌の1フレーズ、「緑の丘の赤い屋根」に合わせて赤く塗られた屋根。園庭への下り傾斜の中腹には保育室への明かり窓を設けた。

1 3~5才児保育室／広い室内空間を確保するため、天井を高く、柱を極力減らした設計に。フローリングの床や天井に加え、柱や梁などの構造体も木材をそのまま見せて、木のぬくもりが感じられる内装とした。3部屋間の建具を開け放つと、催し物用のホールとして使用できる。2 玄関／円弧の外側の中央部に設けられた玄関は、ジャクエツの遊具が鎮座する正面から左右に分かれて、それぞれの年齢別クラスの保育室へと向かう。こちらでも高い天井を木製の構造体が支えている。3 園庭・洗い場／園庭には3カ所の手洗い場を設けて、デッキスペースのどこからでも出入りできる。4 トイレ／清潔感のある園児用トイレ。5 6 0~2才児保育室／低年齢児の保育室には、廊下とつながるロッカーや床暖房装置などを備える。7 ランチルーム／保育室と同様、高い天井と木を感じられる内装を施し、開放感のあるランチルーム。8 廊下&デッキスペース／各部屋を結ぶ廊下と園庭に張り出したデッキスペースは、ガラス戸を挟んで、同じカーブを描きながら接している。子どもたちに長い距離を歩く楽しさを提供しつつ、園庭と各保育室をつなぐ場所として、広がりのある空間を形作っている。9 園庭／円弧型の園舎で囲むことにより、限られた敷地の中で最大限の面積を確保し、園児たちがのびのびと活動できる。園舎内側の廊下を通じて、すべての保育室と接しており、園児たちがすぐに外へ出ることができる。



斬新な設計がゆとりと安全を支える——

特徴的なデザインに驚き。 広々とした空間づくりに納得

お寺の中の託児所を起源とする明信幼稚園と、公立保育園の運営を継承したわかき保育園。佐賀県武雄市で2つの園を運営してきた社会福祉法人教證会は、2016年に両園を認定こども園として一つにする方針を決める。こども園の教育環境を整え、九州でも頻発する災害から子どもたちを守るためには、新しい園舎への建て替えが必要だった。そこで幼稚園がある緑あふれる高台の敷地を建設地に定め、園舎建設のノウハウが豊富なジャクエツに設計を依頼した。

「災害に強い建物にすることのほか、保育室は天井を高くして空間を広くすること、園庭の面積もできる

だけ広げること、周囲の自然環境に合わせて、建材に木を使うことなどもお願いしました。その結果、今のデザインが出来上がってきたわけです。平面図を初めて見たときは、予想を超える斬新さに驚きました(楠村理事長)」

平屋建てで円弧型の木造園舎は、以前ジャクエツが群馬県で手掛けた園舎をヒントに、建設地の形状を踏まえ、中心となる園庭を包み込むデザインを追求する中で生まれた。半円に近い長さの弧を描く園舎の内部に、木目の模様が美しい梁や柱が、高い天井を支える保育室を設けて、幅も高さもゆとりのある広大な空間を確保した。

「園舎の工事が進んでいくにつれて感心したのは、建物の存在感と内部の広さです。珍しいデザインは



私たちの要望をかなえるための設計だったことを理解しました。工事が始まってからも、定例の打ち合わせや電話とメールのやり取りなど、連絡を密に取ってくださったので、内装においても、現場の声を活かしてもらうことができました(楠村理事長)」

2018年4月に完成した新園舎は、同年9月からこども園としてスタートを切った。2つの園の融合を象徴する園舎を舞台に、地域からもさらに親しまれる園を目指して、保育と教育の質の向上を図っていく。

「園2つ分の子どもたちが、のびのびと過ごせる場を作れたことは、今後の当園にとって大きな財産だと感じています。緑に囲まれた木造の園舎を力いっぱい駆けまわってもらいながら、園児の健やかな人間性を育てていくつもりです(楠村理事長)」

建設地の条件の中でご要望にこたえるために選んだデザインではありましたが、特殊な形状の建物を木造で建設するにあたって、施工の際にはさまざまな課題が浮上しました。ロングスパンとなる梁や柱の強度をどう保つか。雨天時の屋根の排水をどう処理するか。部材の加工には特別な工作機械が必要となり、断熱材は通常の倍の量を手配しました。さらに工事期間中に大雪に見舞われ、予定通りの竣工が危ぶまれたこともありま。そうした困難を乗り越えただけに、完成した園舎で子どもたちが所狭しと遊びまわる姿には感慨深いものがあります。木造建築の持つ可能性にも改めて気付かせてもらいました。これからの木造園舎のモデルとして参考にしていただけたらと思います。

福岡設計事務所 小田 将之



PROFILE

社会福祉法人 教證会
理事長・園長 楠村 信叡 様

1961年生まれ。89年から明信幼稚園のスタッフとして運営に関わり、2003年に園長となる。08年、わかき保育園の運営継承に伴って設立した社会福祉法人の理事長に就任。現在は合併したこども園の園長のほか、浄土真宗本願寺派信行寺の住職も務める。





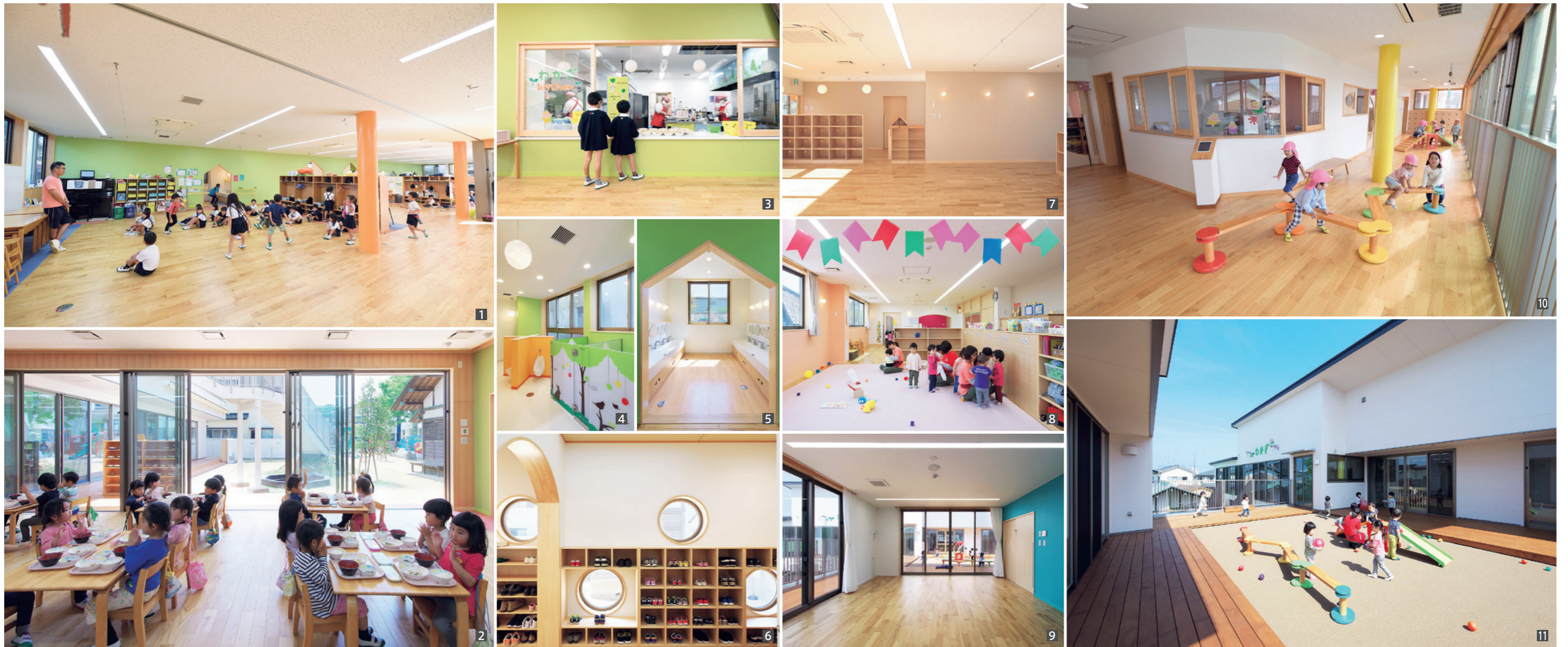
CASE:2

神社と階段をシンボルに、みんなが一つになる園舎

学校法人 杜の子学園 わかぎ幼稚園 様

東日本大震災などを機に、安全な新園舎づくりを模索していた福島県の学校法人様。温めてきた新築計画が動き出したとき、園児同士の交流が生まれる理想の教育環境を形にする挑戦が始まった。園とジャクエツが細部にわたってアイデアを出し合った結果、地上の園庭を中央からのびる外階段で屋上の園庭とつなぎ、年齢別の3クラスが過ごす保育室を間仕切りのない1部屋とするなど、建物内外の空間を一つにする設計が実現した。開放感あふれる新園舎の完成とともに、より地域に開かれた活動も視野に入れている。

学校法人 杜の子学園 わかぎ幼稚園 様	
所在地：福島県いわき市	《園舎概要》
主要用途：幼保連携型認定こども園	構造／鉄骨造2階建
定員：132名	敷地面積／892.12㎡
竣工：2018年3月	延床面積／920.63㎡
	建築面積／536.00㎡



動線と視線が園全体を貫き、 一体的な教育環境を実現

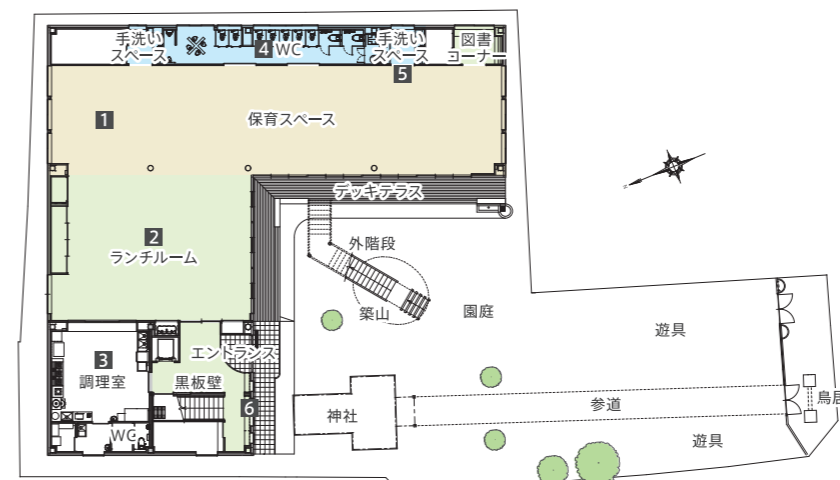
住宅街の中にある敷地のコンパクトさを利用し、園全体に一体感をもたらすデザインを目指した。1階は3～5才児の保育室とランチルームを大きな1部屋とし、大きなガラス戸を開け放つことで園庭ともつながる。0～2才児を預かる2階も職員室と各保育室が相互に行き来できる。1階と2階は地上と屋上の両園庭を接続する外階段でも結ばれ、園舎と園庭を回遊できる動線を確立した。子どもたちの活動を見守りやすいように、園舎の隅々まで視線が届く空間づくりにも気を配っている。

園庭中央に設けた築山から屋上園庭に直接上られる外階段。敷地を立体的に活用するとともに、1階と2階のあそび空間をつなぎ、園を象徴する存在にもなっている。

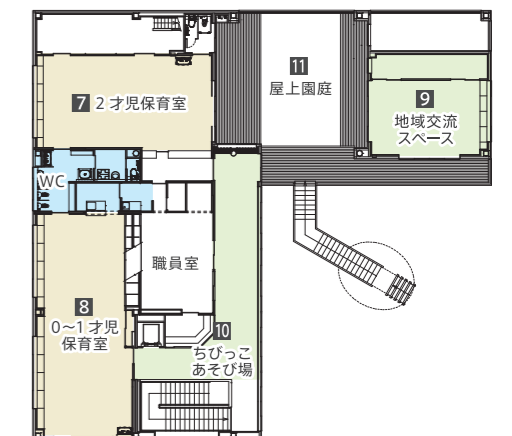


1 保育スペース／3～5才児の保育室を、1階の大部分を占める保育スペースとして一体化。各クラスは棚だけで区分けし、園児たちが年齢の垣根なく交流できる環境を目指した。2 ランチルーム／保育室と直結しているランチルーム。昼食時以外はテーブル類を片付けて、多目的に活用できる空間となっている。3 調理室／配膳窓でランチルームとつながる調理室。床を低くすることで、室内のスタッフとランチルーム側の園児との目線の高さを合わせている。4 トイレ／各年齢の園児たちが共有するトイレは、広々とした空間のゆとりと森を描いた内装の楽しさを追求した。5 手洗いスペース／清潔感あふれる屋内の手洗い場。トイレや図書コーナーと同じ五角形の戸口は子どもたちがくつろぐ家をイメージしている。6 エントランス・靴箱／外部に開いた丸窓に合わせて靴箱を設計。建築と融合した家具のデザインでインテリアに統一感を与えた。7 2才児保育室／屋上園庭とつながる2才児の保育室は、広々とした室内空間を確保。8 0～1才児保育室／0～1才児が過ごす保育室。隣接する職員室から出入りできる。9 地域交流スペース／屋上園庭の南側に設けた一室は、園舎内を bypass して外階段から出入りでき、地域住民の利用も視野に入れている。10 ちびっこあそび場／2階の職員室前のスペースは単なる通路ではなく、子どもたちのあそび場となる広さを確保。南向きの窓には、太陽の光を取り込みながら熱は遮断できるLow-Eガラスを採用した。11 屋上園庭／ゴムチップを敷いて安全に配慮した屋上園庭。外階段から直接上がることができる。

1st Floor



2nd Floor



園児と先生と地域に 交流を生む園舎へ



決定前から建築案づくりで協力。
コミュニケーションが広がる園舎に。

わかぎ幼稚園は1956（昭和31）年、神社の境内に集まる地域の子どもたちに、公教育の場を提供しようと設立された。園は設立の原点でもある神社の社殿と鳥居を敷地内に残し続ける一方で、園舎に関しては、近年になって老朽化に伴う建て替えを模索してきた。2011年の東日本大震災では地元の小名浜港も甚大な被害を受け、安全な新園舎づくりへの思いはさらに強まった。しかし、建設費用の問題などもあり、具体的な新築計画にはなかなか踏み出せずにいた。

「そんなときに私たちの相談に乗ってくれたのがジャクエツでした。まだ建設の見込みがつかない段階から、園舎のアイデアを細かな部分まで提案してくれました。そのときに話し合った内容が、新しい園舎の設計のベースになっています（小名川理事長）」

当初はまだ仮定の話だった園舎の建て替えは、やがて行政からの助成金にメドがつき、2016年頃から現実のプランとして動き始めた。園は住宅街の真ん中にあり、社殿が一角を占める敷地の広さは限られている。「園児たちの交流を育む園舎」を目標に掲げ、理想を形にするために選択されたのは、間仕切りのない保育室と園庭から屋上に上られる外階段を核としたシンプルな間取りだった。

「子どもたちが仲良くコミュニケーションできるように、余計な壁や廊下を取り払って、どこにいてもお互いの姿がよく見える建物を

希望しました。園児や保護者には、広々とした屋内の開放感が好評です。先生方にとっても、園内をスムーズに行き来できて、助け合いながら保育ができる園舎になりましたね（小名川理事長）」

敷地内で園児たちを見守る神社がそうであるように、地域に対して開かれた園であることも目指している。2017年3月に始まった工事の際には、地鎮祭や上棟式に周辺の住民を招くなど、新園舎の完成を機に、地域との関わりもより深めていこうとしている。

「地元のイベントなどに協力して、園舎を地域の皆さんに使っていただくことも考えています。子どもたちの成長の手助けはもちろん、小名浜のまちが震災から再生するために、少しでもお役に立っていただくのが願いです（小名川理事長）」

地域住民も招いて行われた上棟式の餅まき



PROFILE

学校法人 杜の子学園
理事長・園長 小名川 睦子 様

1962年生まれ。98年からわかぎ幼稚園の副園長を務める。2015年に現職に就任。

園庭内には神社の社殿があり、周囲を園児たちが駆けまわる姿が見られる。
境内と一体化した園庭は地域に開かれた教育姿勢の象徴でもある。



神社と共存する個性的な園舎は、2018年に米国有数のデザイン賞である「IDA/APDC Design Excellence Awards」(左)や、アジアデザイナー連盟が主催する「IAI Design Awards」(右)を受賞し、国際的な評価を受けた。

熱を帯びた話し合いが理想を具現化した——

絶大な信頼が可能にした、 施主と設計者の密接な連携

園はジャクエツが設計した新園舎を、「私たちが想像していた理想の建物を形にしてくれました(小名川理事長)」と高く評価する。要望を細やかにくみ取ったデザインを実現できた背景には、ジャクエツとの間に長年にわたって築かれた信頼関係があった。

「先代理事長だった夫が、ジャクエツの製品に惚れ込んだことがお付き合いの始まりでした。『園舎を建て替えるときも、絶対ジャクエツに頼もう』と話していた夫は2015年に亡くなり、私が理事長を引き継ぎましたが、夫の夢でもあった新園舎の設計をお任せするこ

とには何の心配もありませんでした(小名川理事長)」
園舎の建設が具体化すると、定例打ち合わせの場が設けられた。設計担当が東京から福島に何度も足を運んで、設計案の提示や園との意見交換を繰り返した。互いにアイデアをぶつけ合いながら、密度の濃いやり取りを数多く重ねて、目指す園舎の姿を作り上げていった。

「設計者とたくさん会話ができたことで、私たちの思いを十分に伝える時間が持てました。実現が難しいアイデアもかなり出したと思います。設計案にも手直しを大量に入れました。それでも笑って修正してくれて、次回にはより良い案を提示してくださった。本当にありがたかったです(小名川理事長)」

着工してからは打ち合わせが週1回のペースとなった。活発な話し合いの中でイメージを共有し、森をモチーフにした保育室の内装や黒板のように使える壁などの工夫も盛り込まれた。園の思いに設計者がきめ細かな仕事でこたえた結果、2018年3月に竣工した園舎では、仕切りのない保育室とテラスでつながった園庭を園児たちが所狭しと遊びまわる光景が現実のものとなっている。

「打ち合わせでは冗談半分ながら、『世界一の園舎にしよう』と話していたものです。私たちににとっては、まさにイメージした通りの最高の園舎ができました。心から満足できる環境を、子どもたちに提供できたことに感謝しています(小名川理事長)」

理事長をはじめとする先生方が当社をご信頼いただき、打ち合わせで生の声を伝えてくださったことで、設計する側としても、大変やりがいの持てる現場となりました。いただいた要望を踏まえて目指したのは、子どもたちが主役となれる園舎です。できるだけシンプルなデザインを提案して、全体的にオープンな空間づくりに努めました。完成した園舎は園の皆さんはもちろん、私たち設計担当者や施工業者も含めて、工事に関わった全員の思いが詰まった建物になったと感じています。この園舎を通じて、園児や保護者、先生、地域の方々が盛んに交流し合う機会が生まれてくれたら、それに勝る喜びはありません。

東京設計事務所 内田 玄 (写真右)

施工の段階から参加して、内装のデザインを担当し、園の柔らかなイメージを表現するために精一杯知恵を絞りました。園庭の洗い場のモザイクタイルを自分の手で貼ったことも印象深い思い出です。社会人になり、設計に携わって初めての現場でしたが、先生方に温かく見守っていただきながら、何とかご期待に添える仕事ができることを今後の励みにしていきます。

東京設計事務所 玉川 遥香 (写真左)



玄関横の黒い壁や1階保育室のライトグリーンの壁には特殊な黒板塗料が塗られ、チョークで文字や絵を描くことができる



園舎の南東の隅には、園児が落ち着いて過ごせる図書コーナーを設置



外階段の下に砂場を設けて、自由に遊べるスペースを用意している



設計事務所 ARCHITECTURE OFFICE

子どもたちが主役の「宮殿づくり」

ジャクエツの園舎設計のコンセプトは“子どもたちの宮殿づくり”。
 これまでに、幼稚園・保育園専門の設計事務所として、
 500園以上の園舎を設計させていただきました。
 プランニングからアフターフォローまで、
 子どもたちの成長を第一に、それを支える職員の皆さまを
 施設設備の面からサポートいたします。

株式会社ジャクエツ
 一級建築士事務所



東京設計事務所

東京都知事登録 第44805号

〒108-0074 東京都港区高輪4-22-4
 TEL 03-5789-1100

名古屋設計事務所

愛知県知事登録(い-27) 第13105号

〒460-0012 名古屋市中区千代田5-11-32
 TEL 052-265-2730

宇都宮設計事務所

〒320-0847 宇都宮市滝谷町20-17
 TEL 028-614-5070

大阪設計事務所

大阪府知事登録(イ) 第24853号

〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-11-3
 TEL 06-6471-3939

横浜設計事務所

〒221-0865 横浜市神奈川区片倉2-22-1
 TEL 045-488-6253

広島設計事務所

広島県知事登録17(1) 第5246号

〒730-0843 広島市中区舟入本町6-21
 TEL 082-531-0770

福岡設計事務所

〒812-0896 福岡市博多区東光寺町2-8-31
 TEL 092-451-0117